ISSN 1881-0276

Toyo University 125th Anniversary
Tradition of 125 years into the future

ライフデザイン学研究

Journal of Human Life Design

第　7　号

東　洋　大　学
ライフデザイン学部

目　次

巻頭言

ライフデザイン学への思い……米田　郁夫　3

古川孝順先生退職特集

ライフデザイン学部の発展に向けて－古川孝順教授の残したもの……小澤　温　5

古川孝順先生退職を記念して
古川孝順先生に感謝とお礼とお願い……鈴木　哲郎　7

古川孝順先生、お疲れ様でした……高橋　儀平　9

古川孝順先生最終講義

社会福祉研究45年……古川　孝順　11
講義内容
講義レジュメ

古川孝順先生　履歴……28

古川孝順先生　研究業績……30

論　文

発育に伴うラット脛骨骨端板の構造変化に関する研究
……秋山　和歌子／飛田　哲也／大迫　正文　39

家族介護者の支援に関する一考察
－介護と育児を同時期に行う家族介護者への支援についての一考察－
……浅野　いずみ　51

Zen and Health, III
The Effects of Zen on Sports and Mental and Physical Medicine……岩本　一　79

大正後期から昭和初期における子どもの権利保障活動の萌芽に関する研究
－「大阪児童愛護聯盟」の機関誌『子供の世紀』
（第3巻第2号～第5巻第12号）を手がかりに－……内田　塔子　95

バドミントンのサービスにおける主観的努力度と客観的達成度の対応関係……金子　元彦　109

公営コレクティブハウジング居住者の入居時期別にみたコミュニティ活動の相違
－埼玉県W住宅を事例として－……神吉　優美　121

地域在住中高齢者を対象とした種目選択型健康運動講座参加が
一過性の感情および身体機能に及ぼす効果
……神野　宏司／鈴木　智子／岩本　紗由美／金子　元彦／古川　覚／
齋藤　恭平／杉田　記代子／坂口　正治／松尾　順一　131

岡山孤児院の「茶臼原農村」づくりと農場学校開校の前提条件……菊池　義昭　143

児童自立支援施設における学校教育の実施に関する研究
――　学校教育を担当する教員の意識調査をもとに……小林　英義　181

地域在宅高齢者に対する参加型学習活動の設定と健康度やＱＯＬへの効果
……齊藤　恭平／佐藤　美由紀／芳賀　　博　213
宮沢賢治論―「土神ときつね」異読―……高橋　直美　223
認知症高齢者グループホームにおける入居までのプロセスに関する一考察
―入居者本人の参加に焦点をあてて―……辻　　泰代　237
発育期ラット脛骨の構造に及ぼす短期間不動の影響
……飛田　哲也／秋山　和歌子／大迫　正文　257
日本における難民のメンタルヘルスの課題……三木　良子　273
『新仏教』を支えた人々……三浦　節夫　291
歩行困難高齢者のための外出支援機器の開発
……米田　郁夫／繁成　　剛／高橋　良至／鈴木　哲郎／
李　　虎奎／小澤　　温／河合　俊宏　311
対人援助における「自立」概念……吉浦　　輪　331
Adapting Authentic Material for Language Learning……Nicholas LAMBERT　343

研究ノート

成年後見人の身上配慮義務について……菅田　理一　357

特別研究報告

韓国における内丹修練団体に関する調査研究……木内　　明　363
韓国におけるキリスト教系社会福祉館の設立とその展開……的場　智子　365
民族スポーツ実践のための教育システムの構築
－ミャンマーの伝統スポーツ「チンロン」の教材化を中心に－……石井　隆憲　369
「日本の建築」について　2010年秋学期国内特別研究報告……内田　祥士　375

プロジェクト研究報告

死生学の構築へ向けて― ライフデザイン学的アプローチの探求 ―
‥池田 千登勢／井上　治代／菊地　章太／北　　真吾／繁成　　剛／柴田　範子／
白石　弘巳／杉田 記代子／出村　早苗／野村　豊子／水村　容子／山本　美香　383
大学と行政の協働による地域の健康スポーツ指導者養成プログラムの開発
……斉藤　恭平／鈴木　哲郎／神野　宏司／古川　　覚／
岩本　紗由美／金子　元彦／鈴木　智子／嶋崎　博嗣　387

東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規……391
東洋大学ライフデザイン学部紀要査読制度内規……394
東洋大学ライフデザイン学部紀要原稿執筆要領……396

東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規

平成17年４月１日　施行
平成19年４月１日　改正

（目的）

第１条　東洋大学ライフデザイン学部紀要『ライフデザイン学研究』（以下「紀要」という。）はライフデザイン学部（以下「学部」という。）の教育と研究を促進し、教員を中心としたそれらの成果発表の場として、さらに「ライフデザイン学」の形成とその発展に寄与することを目的とし、関連の論文、研究ノート、書評、研究展望、学部教育に関する諸活動報告等を掲載発表する。

（刊行物と編集）

第２条　学部で刊行する紀要はライフデザイン学部紀要編集委員会（以下「委員会」という。）内規第４条による。

（投稿資格）

第３条　紀要に投稿できる者は原則として学部の専任教員とする。ただし、以下の場合には、委員会の判断で受け入れることができる。

⑴　委員会において特別に依頼する場合
⑵　学部専任教員が代表である共同執筆原稿の場合
⑶　掲載余地があり、学部非常勤講師から希望があった場合
⑷　学部生の執筆で学科の推薦を得たもの
⑸　研究科生による修士論文あるいは博士論文で専攻の推薦を得たもの

（原稿の種類）

第４条　この紀要に投稿できる原稿の種類は、次のとおりとし、未発表の原稿に限ることとする。

種　類	内　　容
１．総説	ライフデザイン学全般もしくは個別領域にかかわる総括的論述
２．論文	オリジナルな研究成果をまとめたもの（査読対象とする）
３．研究ノート	研究の中間報告、覚書および新しい研究方法についての報告、翻訳（投稿者の依頼があった場合、査読対象とする）
４．書　評	書籍、文献の批評、紹介
５．研究展望	それぞれの研究分野の成果をまとめたもの、研究動向を展望したもの
６．学部活動記録	当該年度の学部活動を報告する内容のもの
７．学部教育活動への取り組み	学部での教育内容を評価するもの
８．修士論文（概要）	大学院生の研究成果
９．学部生の論文（概要）	学部生の学習成果

10. 資料	研究上価値ある資料あるいは新出資料などの紹介・解説
11. 研究報告	社会実践にかかわる活動の研究報告、作品制作の報告、作品解説など
12. 学部プロジェクト研究報告	学部プロジェクト研究の成果を要約して報告するもの

（二重投稿の禁止）

第５条　前条に該当し投稿された第６条に規定する原稿であっても、同一の原稿を本学紀要以外の他紙に投稿することはできない。また二重投稿が判明した場合は掲載を中止する。

２　当該原稿を他紙に投稿する場合は、委員会より正式に不採用の連絡を受けた後に行う。

（申込と締切）

第６条　投稿申込と締切期限は、年１回の刊行の場合は次の各号のとおりとし、年複数回の刊行の場合は、その都度委員会が別に定める。

⑴　執筆計画の把握のため､別に定める「紀要投稿申込書」を７月末までに委員会が集約する。

⑵　原稿は、10月第１週水曜日までに委員会に提出する。

（執筆要領）

第７条　原稿の執筆にあたっては、別に定める紀要執筆要領による。

（原稿の査読と掲載の可否）

第８条　査読は別に定める「ライフデザイン学部紀要査読制度内規」に基づき行う。

２　掲載の可否は、第１項の結果に基づき、委員会が決定し、投稿者へ結果を連絡する。

３　投稿数の制限は定めないが、同一号に原稿が複数採択された場合、次号に繰り延べて掲載することがある。

（補筆と修正）

第９条　委員会は、必要に応じて、執筆者に補筆や修正を求めることができる。

（原稿の返却）

第10条　投稿された原稿は、著者に返却する。

（抜刷）

第11条　著者には電子媒体による抜刷を１部配布する。

（配布先等）

第12条　紀要の配布先は、毎年委員会が定める。

２　学部ホームページに電子情報として掲載することができる。また管理サーバー等の掲載条件が可能な範囲でデータは蓄積する。

（原稿料など）

第13条　原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

（著作権等）

第14条　本学部が編集刊行する紀要の編集著作権は本学部に帰属する。

2　紀要に掲載された個々の著作物の著作権は、当該著作物の著作権者に帰属する。

3　紀要に掲載された個々の著作物について、著作権侵害、名誉毀損、またはその他の紛争が生じた場合、当該著作物の著作者を当事者とする。

（改廃）

第15条　本内規の改廃は、教授会の承認を得るものとする。

附則

この内規は、平成17年４月１日から施行する。

附則

この内規は、平成19年４月１日から施行する。

東洋大学ライフデザイン学部紀要査読制度内規

平成17年４月１日　施行
平成19年４月１日　改正

（目的）

第１条　本規程は、東洋大学ライフデザイン学部（以下「学部」という。）の刊行する紀要『ライフデザイン学研究』（以下「紀要」という。）と掲載される個々の著作物の質の向上と保証を図ることを目的とし、査読制度により審査を行う。

（査読の対象）

第２条　査読は、論文および投稿者より審査依頼がなされた研究ノートについて行う。査読された原稿についてはその旨を明記する。

（査読の内容）

第３条　審査原稿について、東洋大学ライフデザイン学部紀要編集委員会（以下「委員会」という。）の定めた学部内および学部外各１名の査読員による体裁、学術的内容の査読を行い委員会に結果を報告する。

２　内規第４条の審査を行わない原稿について、委員会が定める学部内の校正委員１名により、体裁、内容の校正について委員会に助言を行う。

（査読員の要件）

第４条　学部内査読員は、学部専任教員とする。

２　学部外査読員は、その著作物の内容ついての専門領域における学部外の専門家又は学識者とする。

（査読員の委嘱）

第５条　第３条について、委員会は査読員、校正委員を選出し、学部長により委嘱する。

（査読員の非公開）

第６条　学部内査読員については、いかなる理由であっても公開しない。

２　学部外査読員については、紀要に採択の上、掲載されるときに限り各著作物の巻末に査読員を掲載する。

（審査）

第７条　２名の査読員は、執筆者の原稿について速やかに査読の上審査を行い、ＡＢＣで評価する。Ａは「採択（軽微な字句の修正を含む）」、Ｂは「一部修正の上採択」、Ｃは「不採択」を意味する。又、その結果を委員会に報告する。

２　２名の査読員がＡＡ、ＡＢ、ＢＢの評価の場合は査読審査合格とし、掲載可とする。ＢＣ、ＣＣの場合は査読不合格とし、掲載不可とする。ＡＣの場合はさらに第３者に査読を依頼し、Ａ又はＢの場合は掲載可とし、Ｃの場合は不合格とする。

３　査読審査結果は委員長より通知する。

（修正）

第８条　委員会は、上記の審査結果に基づき、採用論文について執筆者に修正を求めることがある。それ以外は審査後の修正は認めない。

（審査料）

第９条　学部外査読員には次の査読審査料を支払う。

⑴　原稿１本につき10,000円とする。

（改正）

第10条　本内規の改廃は、教授会の承認を得るものとする。

附則

この内規は、平成17年４月１日から施行する。

附則

この内規は、平成19年４月１日から施行する。

東洋大学ライフデザイン学部紀要原稿執筆要領

平成17年４月１日　施行
平成19年４月１日　改正

１．使用言語

使用言語は、特に制限しない。ただし、印刷等にあたり特別の技術を有する言語、査読委員の選出に困難を来す言語、その他の事情を有する言語については、事前に編集委員に相談すること。また母語以外を使用する場合には当該言語のネイティブ・スピーカーによる校閲を受けたうえで提出することとする。

２．執筆者

投稿資格者は、東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規第２条に定める者とし、共著者がいる場合は氏名の右肩に＊印を付けて示すこととする。

３．要旨及びキーワード等

原稿の本文が日本語の場合には、欧文（英･独･仏のいずれか）の表題、著者名、要旨及びキーワードをつけること。欧文要旨は100 ～ 150ワード程度とする。

原稿の本文が英語又はその他の言語の場合には、各言語の要旨、キーワードのほかに、日本語の表題、著者名、要旨及びキーワードをつけること。日本語要旨は600 ～ 800字程度とする。

欧文要旨は、当該言語のネイティブ・スピーカーによる校閲を受けることとする。

４．本文及び脚注・注

本文は原則として横書きとし、英語の場合はダブルスペースで記述する。原稿用紙の大きさはＡ４サイズを標準とする。長さは日本語の場合はＡ４用紙30枚を超えない程度とする（いずれの場合も図表を含むものとする）。他の言語の場合もこれらに準ずる。以上の内容に依りがたい時は編集委員と協議して決めることとする。

脚注は、本文中の該当箇所の右肩に一連番号を打ち、注そのものは当該ページの下部に記入する。各章毎、あるいは本文末に注をまとめる場合も、注番号は当該箇所の右肩に一連番号で示すこととする。

提出時に総字数を示すこととする。

５．参考文献

参考文献は、原則として以下の要領で記載する。

⑴　和文の参考文献

１）雑誌

著者名、表題、雑誌名、巻数（号数)、(刊行された西暦年）

２）単行本

著者名、署名、発行所、ページ数、(発行された西暦年）

３）編著書の中の１章又はシリーズの中の１巻

著書名、章名、編者（又は監修者）名、書名、発行所、ページ数、(刊行された西暦年)、

又は著書名、書名、編者（又は監修者）名、シリーズ名、第XX巻、発行所、ページ数

４）その他の参考文献については、上記１)、２)、３）に準ずる。

⑵ 欧文等の参考文献の場合

上記⑴に準ずる。ただし、書名などについては、主な単語（Word)、固有名詞などは大文字で書き始めること。

６．図表

① 図は著者の作成したものをそのまま印刷するので､黒インクで浄書（トレース）すること（ワープロ印刷でも可)。トレース等が困難な場合にはトレース料は自己負担とする。

② 図は､なるべく白紙に黒インクで大きめに書くこと。又､各図は一枚毎に別々の用紙に書くこと。

③ 図中の文字数字等は写植されるので､正確に書くこと。大文字と小文字､イタリック体､ゴチック体などの違いにも注意すること。

④ 図（写真を含む）及び表には必ず名称を付けること。

⑤ 図表の番号は、それぞれが本文に現れる順にしたがって、通し番号で付けること。又、本文中の各図表の挿入箇所は明確に指示すること。

⑥ 各図表の作成に使用した資料あるいは文献は、必ず注として明記すること。

７．原稿の提出

原稿は本文のハードコピー２部及びＦＤ等に収録したもの（ワープロのフォーマット形式及びテキスト形式の両方）で編集可能なものに、それぞれ一枚ずつ別々の用紙に作成した図表を付けて提出するものとする。

ＦＤ等のラベルに、著者名、主タイトル、及び使用した機種名・ソフト名（バージョン数）をできるだけ詳しく記載する。

附則

この要領は平成17年４月１日から施行する。

附則

この要領は平成19年４月１日から施行する。

ライフデザイン学研究第７号　編集委員

伊　藤　美　佳（生活支援学科）
岩　本　　一　（健康スポーツ学科）
北　　真　吾　（人間環境デザイン学科）
吉　浦　　輪　（生活支援学科）

Editorial Board

ITOH Mika (Department of Human Care and Support)
IWAMOTO Hajime (Department of Human Care and Sports)
KITA Shingo (Department of Human Environment Design)
YOSHIURA Toru (Department of Human Care and Support)

ライフデザイン学研究　第７号

2012年３月31日発行

発行者　東洋大学ライフデザイン学部
〒351-8510　埼玉県朝霞市岡48-1
TEL 048（468）6311（代）　FAX 048（468）6320
印刷所　株式会社 フクイン

Journal of Human Life Design

NO.7

Contents

YONEDA Ikuo 3
Prefatory Note

Retirement commemoration of Professor Kojun Furukawa

OZAWA Atsushi 5
Development of Faculty of Human Life Design-Achievement of Professor Kojun Furukawa
Suzuki Tetsuro 7
Commemorating the Retirement of Professor Kojun Furukawa
Expressions of Gratitude for Professor Kojun Furukawa
Takahashi Gihei 9
Thank you very much,Professor Kojun Furukawa

Final lecture of Professor Kojun Furukawa

FURUKAWA Kojun 11
45yers of Social Welfare Study
Professor FURUKAWA's History/Main Achievements

Articles

AKIYAMA Wakako,TOBITA Tetsuya,OHSAKO Masafumi 39
Study on Structural Changes in Tibial Growth Plate ofGrowing Rats
ASANO Izumi 51
A consideration on the support for family caretakers
—As a basic study of the support for family caretakers who are engaged in elderly care and childcare at the same time. —
IWAMOTO Hajime 79
Zen and Health, III The Effects of Zen on Sports and Mental and Physical Medicine
UCHIDA Toko 95
A Study of the Exploratory Activities on the Implementation of Children's Rights in the Taishō and the Early Shōwa Era
KANEKO Motohiko 109
Relationships between the subjective effort and the objective performance Service stroke on badminton
KANKI Yumi 121
DIFFERENCES OF WAY OF LIVING AMONG RESIDENTS AT PREFECTURAL COLLECTIVE HOUSING CAUSED BY TIME DIFFERENCE OF MOVE-IN-CASE STUDY ON SAITAMA PREFECTURAL"W"HOUSING –
KOHNO Hiroshi, SUZUKI Tomoko, KANEKO Motohiko, FURUKAWA Satoshi, SAITO Kyohei, SUGITA Kiyoko, SAKAGUCHI Masaharu, MATSUO Junichi 131
Effects of Combined Exercise Program to Mood Change and Physical Fitness for Community-Dwelling Middle-Aged and Aged People.
KIKUCHI Yoshiaki 143
The Preconditions for Okayama Orphanage Opening an Agricultural School and Founding Chausubaru Village
KOBAYASHI Hideyoshi 181
A study on enforcement of the school education in a children's self-reliance support facility—— Based on the attitude survey of a teachers in charge of school education
SAITO Kyohei ,SATOU Miyuki, HAGA Hiroshi 213
Participatory learning activities for elderly persons living in the community and the effect on health and QOL
TAKAHASHI Naomi 223
The study of "Kenji Miyazawa"An Interpretation of "Tsuchigami and Fox"
TSUJI Yasuyo 237
A consideration of the process until elderly with dementia moving in the group home.—Focus on participation of the elderly moving in the group home.—
TOBITA Tetsuya,AKIYAMA Wakako,OHSAKO Masafumi 257
Effects of short term immobilization on tibial structure in growing rat
MIKI Ryoko 273
The issues of mental health of refugees and asylum seekers in Japan
MIURA Setsuo 291
The Supporters of the "New Buddhism" in Meiji Japan
YONEDA Ikuo, SHIGENARI Takeshi, TAKAHASHI Yoshiyuki , SUZUKI Tetsuro, LEE Hokyoo, OZAWA Atsushi, KAWAI Toshihiro 311
Development of new personal mobility device supporting going-out for elderly people with difficulty in walking
YOSHIURA Toru 331
The Concept of "Independence" of Social Work Theory
LAMBERT Nicholas 343
Adapting Authentic Material for Language Learning

Research Note

SUGETA Riichi 357
Evaluation of an adult ward's mental and physical condition by the guardian

Special Research Reports

KIUCHI Akira 363
Summary of 2009 Overseas Research
MATOBA Tomoko 365
The establishment and development of a Christian Community Center in Korea
ISHII Takanori 369
Toward making an educational system of ethnic sport practice
- with special reference to the Myanmarese traditional sport "Chinlone" as a teaching material in class –
UCHIDA Yoshio 375
Thinking about Japanese architecture

Research Projects Reports

IKEDA Chitose , INOUE Haruyo, KIKUCHI Noritaka, KITA Shingo, SHIGENARI Takeshi, SHIBATA Noriko, SHIRAISHI Hiromi, SUGITA Kiyoko, DEMURA Sanae, NOMURA Toyoko, MIZUMURA Hiroko, YAMAMOTO Mika 383
Constructing the Thanatology: an Approach through the Human Life Design Studies
SAITO Kyohei, SUZUKI Tetsuro,KOHNO Hiroshi, FURUKAWA Satoshi, IWAMOTO Sayumi, KANEKO Motohiko, SUZUKI Tomoko, SHIMAZAKI Hirotsugu 387
Development of community sports leaders training program on the cooperation of university and administrative agency

Precriptions 391

Published by Toyo University, Faculty of Human Life Design, Asaka, JAPAN